

テーマ(案)	変容するコミュニティ: 持続可能な学術情報流通をめざして	2021年9月27日 SPARC Japanセミナー企画ワーキンググループ
日程(予定)	テーマ(案) 及び 企画WGメンバーの関心事項	WG担当(予定) ◎主査
午前の部 (開催月未定)	<p><b>○学術情報流通の今</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学術雑誌の価格高騰は続いており、所属機関によってアクセス可能な学術情報資源に差が生じている。一方で、論文、プレプリント、データ、コードなど、多様な学術情報資源が公開され、多様なプラットフォームで入手可能になっている。研究者や支援担当者を主な対象として、さまざまな学術情報資源へのアクセス方法を共有したい。(OA論文の入手/オープンデータの入手/分野を超えたデータの入手と活用)</li> <li>・JOSSでの発表資料からテーマの着想を得た。OAのものが増えてきたとはいえ、研究者は学術情報資源を十分に入手しきれておらず、日本の研究者は論文へのアクセスがままならない現状がある。そのような状況の中で、従来見られなかった情報の収集方法が現れている。特にオープンデータについては、自分の研究に必要な情報にアクセスするノウハウを共有できたら良い。</li> <li>・データポリシーの策定にあたり、ガイドライン策定の困難に直面している機関が多い。また、機関により、図書館・研究支援部門・研究者など対応部門が様々という実情もある。図書館側としては研究データを扱ったことがなく(及び腰)、研究支援部門にはメタデータ作成の知識はなく(できない)、研究者本人が作成するには時間的負担が重い(時間がない)。ポリシー策定のための意図や動機付けとなるもの(ポジティブな価値や目的)があれば立場が異なってもイメージしやすく、取り組みやすい。政策的・お題目的な話は正しく理解されていない恐れがあり、本来の意図が伝わっていないように感じる。研究データを公開することの目的・必要性については、SPARC Japanでは共有されているように思うが、そもそもデータポリシー策定の目的についての理念はきちんと語られてこなかったのではないかと。ポリシー策定の目指すところを策定者サイド(内閣府)に確認したい。</li> <li>・データポリシー策定の目的と合わせて、学術情報流通を支えるインフラをどのような思想で作っているのか、NIIに話を聞きたい。個々の機能説明は様々な場でされているが、JAIRO Cloudや学認RDMなどを推進するなかで、何を実現しようとしているのか、その理念を聞いてみたい。引いては日本の研究の目指すところについてどう考えているのか、日本のOSをどう方向に進めて何を期待しているのかという点について、インフラの話を通してお聞きしたい。</li> <li>・中小規模大学のトップの方に、データポリシー策定・研究データ管理についてどのように受け止めているかお話しください。裏テーマとして、トップの方が理解してリーダーシップを取らないと、プロジェクトが回らないという問題があり、その参考例として提示できればよい。</li> </ul>	◎池内(文教大) 矢吹(横浜国大) 安原(NII/JPCOAR)
午後の部 (開催月未定)	<p><b>○今そこにある課題</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・図書館の視点から見ると、学術情報といえばこれまでは電子ジャーナルやリポジトリの話であったが、現在はプレプリントや研究データの話も出てきた。最近では学術情報を取り巻くコミュニティが増加しており、コミュニティ同士の関わり方も多様になっている。これからはOSを推進していくにはそれぞれがうまく働く必要があるが、最近では複雑化し、コミュニティができた当初の役割や価値観では対応しきれなくなっている。SPARC Japanの親委員会や学術会議の提言、ジャーナル問題検討部会でも各コミュニティの役割を考え直しているところでもあるため、それぞれのコミュニティの役割や関与について、当事者同士が話す機会を作りたい。コミュニティに所属していても、自身の役割は何であるのかといったことや、役割が変わったときに業務がどう変わるのか、自分の業務と所属コミュニティの目指すところの食い違いがあったときどうするか等を普段考える機会がないので、参加者の皆様に考えていただく機会にしたい。</li> <li>・課題解決の前に誰がどんなことをしているかを紹介したい。現時点ですぐに解決はできなくても、解決へとつなげるためにTo Doを共有してはどうか。SPARC Japan・JPCOAR・分野リポジトリ・JUSTICEの代表者や中小規模大学担当者にお話しください。データ引用についてはRDUFの小委員会、データポリシーは研究者かつRDF作る側の方を登壇者候補としたい。</li> <li>・助成機関を呼ぶのは確かにありだとは思う。ステークホルダーのインセンティブづくりをどうするか考えるために、何らかの形で取り上げたい。</li> <li>・オープンフォーラムにおいてOSに取り組んでいる大学の事例紹介を聞いたが、本学のような中小規模の大学では、大規模大学のように専任の職員を置くことは難しく、複数の部署で分担してプロジェクトを回す必要があり、大規模大学以上にプロジェクトマネジメントが求められると感じた。内閣府から研究データポリシーの案内が6月頃来たが、総務から本課に丸投げされる事態があり、処理方法を思案している。現在は2023年までに実施すべきタスクを整理し、それぞれのタスクに関して対応する部署を考えるなど、プロジェクト表を作っている段階である。大規模大学のやり方をそのまま中小大学で全て実行することは難しく、どこがポイントであるかを押さえていく必要がある。OS自体は大規模大学だけでやればよいというものではなく、中小規模大学で推進するための具体的な動かし方を模索する場が欲しい。国内ではまだまだこれからの分野であるため、海外の事例が参考になるのではないかと。</li> <li>・現在文部科学省から研究データポリシー策定の依頼が来ている。本学では、図書館が受け取り、研究推進課が対応することになった。現場では研究不正防止の取り組みという認識が強く、よく分からない状態で引き受けてしまっている。研究推進課で引き受けた背景には図書館でこれ以上人員が割けないという事情が存在し、困っている機関も存在するのではないかと。大学で具体的にこの問題にどう対応するかという点について、ポリシーの策定ができていない機関に所属する人から話を聞き、悩んでいる大学同士で課題を共有したい。</li> <li>・データポリシーをSPARCで引き受け取り扱うというのは良いアイデア。多くの機関が苦勞しているポリシーを作るための内規を整えるということに切り込むというのもありではないか。</li> <li>・逆説的なアプローチで話を聞きたい。現場の先生方にもOA/OSを推進することへの温度差がある。大学全体で推進していくにあたり、先生方にとってメリットある仕組みを組まないとなかなか理解してもらえない。分野別の事情を汲み、教員の業績評価につながるような仕組みづくりをすればモチベーションになるのではないかと考えているが、アメリカのOAの動きに関する意識調査のように日本でアンケート調査を実施し、アンケートの「こういうことができれば協力するのに」という声を取り入れることができれば、突破口になるのではないかと。</li> </ul>	◎八塚(NBDC) 上野(電気通信大) 山形(北海道大)
パネルディスカッション	<ul style="list-style-type: none"> <li>・後半の総合討論においては各団体同士で話す機会を確保したい。</li> <li>・SPARC JapanのWGは講演の中に入れられるかは不透明だが、討論の最初などで何をしたいか説明したい。</li> </ul>	◎林(NISTEP) 池内(文教大) 八塚(NBDC)